

なぜなケアプランセンター



訪問すると「忙しいのに、ごめんね」と言われることが度々ある。でも、実は私は訪問を楽しみにしているのだ。たわいもない話かも知れないが、そんなたわいもない話の中に謎解きのように大事なヒントが隠されている事がある。そのヒントを見つけ出し、その人のケアプランにはめ込むとスムーズに進むことがある。だから、そんな話が私にとっては大事なのだ。また、謎を解く過程も、うまくいった時の達成感も、私がこの仕事を続ける糧になっている。忙しいこともあるが、今日も訪問することを楽しみに仕事をしている。

共生の里ヘルプステーション



建物の老朽化で引っ越しを余儀なくされた利用者がいました。不動産会社を何件もあたったが「年齢」や「健康」を理由に敬遠される日々が続きました。「自分の家で最期を迎えたいけど、無理かな」と言っていた矢先、貸してくれる所を見つけたと連絡がありました。高齢になってからの転居は、社会との関りや交友関係の減少を招き、心身に不調をきたして認知症のリスクが高まると聞きます。幸い、住み慣れた地域での引っ越しで、体調は良いようです。何より「窓から青空が見える」と笑顔で話していたのが印象的でした。

誕生日に寄せて

沖縄出身で小さい時から畜産の仕事をしました。家畜の病気を治したいと、22歳の時に獣医の大学に入学しました。「たまたま入学できた」と謙遜していますが、かなり勉強されたようです。卒業後は無休で修業をし、その後沖縄に帰り獣医を開業しました。みんなからは「先生」と呼ばれ、いつもにこやかで周りを和ませてくれます。今の夢は、沖縄に帰り、再び獣医を開業することだそうです。

